

〈大単元の活動計画〉

単元名	いきものとなかよし	総時数	21時間	合科 (国②)
(単元導入のきっかけ)				
「はるとあそぼう」でおとぎばなし公園に行き、春の自然とかかわり、身のまわりの草花に関心が深まっている。こうした興味・関心から、「みんなも花を育てよう。」と投げかけていく。				
〈支援〉				
言葉かけ ・水かけを忘れる子 「種(花も水が飲みたいよ。)」 ・芽が出ていることに気がつかない子 「植木鉢を見てごらん。」 ・興味・関心が続かない子 (朝の教師の話) 「芽は、どうなっているのかな。」 ・変化に気付かない子 「葉っぱ・茎・花をよく見てごらん。」 「葉っぱの数・花の数を数えてごらん。」 「葉っぱや花を触ってごらん。」 ○毎日観察している子 「毎日偉いね。お花も喜んでるよ。」 「みんなに教えてね。」 ○全員の子へ (暑中見舞いのはがきで) 「お花は、きれいに咲いていますか。」 環境 ○栽培活動に関係のある本の読み聞かせをする。 ○種の袋を掲示する。 ○全員の観察カードを掲示する。 ○一人一人の植木鉢を毎日交換して教室に飾る。 ○草花・草花遊びに関係のある本を本棚に入れておく。		1. おおきくなってね ⑦ ○自分が育てたい花を決める。【研究内容II】 ① ○土作りと種蒔きをする。 ② ○種蒔きの様子をカードにかく。 ③ ○お世話の仕方を話し合う。 ④ ○移植をする。 ⑤ ○移植の様子をカードにかく。 ⑥ 早く大きくなるといいな。 きれいな花が咲くといいな。		
		2. きれいな花をさかせてね ⑤ (国②) ○成長の様子を観察しカードにかく。 ① ○成長の様子をペープサートにして劇遊びをする。 【研究内容I】 (国②) ○除草・追肥などのお世話や手入れをする。 ③ ○夏休みの手入れの仕方について話し合う。 ④ 夏休みにお家でいっぱいお世話をすぞ。 きれいな花がいっぱい咲くといいな。		
		3. おおきくなったね ④ ○花の汁遊びをする。 ① ○オクラのスタンプ遊びをする。 ② ○押し花を作る。 【研究内容II】 ③ ○押し花を使って物を作る。(検証授業) ④ ○種集めをする。 ⑤ ○自分の花の思い出の作品を作る。 ⑥ ○鉢や土の手入れをし、秋植の球根を植える ⑦		

(2) 考察

年間単元構想図を作成することによって、「いきものとなかよし」の単元が他の単元とどのようにかかわり合っているかを把握することができた。

子どもたちの思いや願いを取り入れた活動や一単元を通して活動意欲が持続するような活動計画を立てて、一人一人の子どもに対応した「ことばかけ」や「環境」を考えた支援を計画し実践することによって、子どもたちは、単元が終わる11月まで自分の花と積極的にかかわることができた。

3 魅力的な活動の工夫

(1) 検証授業計画

- ① 単元名 「おおきくなったね」
- ② 検証の観点

栽培活動に継続的にかかわり意欲的に活動するために、「魅力的な活動」の工夫が有効であったかどうかをとらえる。

- ア 事前・事後の調査から
- イ 活動の様子・作文から
- ウ 抽出児童の活動の様子・作文から

※抽出児童について

- H児：生活科は嫌い・受動的・集中力あり
- B児：生活科が大好き・能動的・集中力なし

【検証授業】

- (1) 活動名「おしばなをつかってつくろう」
- (2) ねらい

自分が育ててきた花の押し花で、自分なりに表現することができる。

(3) 授業仮説

自分の育てた花の押し花を使って、自分なりに作りたいものを作る表現活動を取り入れることによって、今後の栽培活動に興味・関心を持って継続的にかかわり、植物を育てる喜びを味わうことができるであろう。

(4) 考察

- ア 事前・事後の調査から

花を育てたいですか。

- ・事前調査 育てたい (56%)
- ・事後調査 育てたい (96%)

☆事前・事後の調査結果から、40%の子どもが「魅力的な活動」を取り入れることによって「花を育てたい」という意識に変わり、全体では、一人を除いてほとんどの子どもが花を育てたいという意識に変わった。今後の活動においても、意欲的に活動していくものと考えられる。

- イ 子どもの活動の様子・作文から

しおり	はがき	お手紙	壁掛け	宝物箱	鉛筆立て
37人	25人	13人	7人	5人	4人